

2021年度 重点領域研究助成費 中間報告書

2022年4月5日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	住吉 和子
研究課題	学士課程教育における看護学の学びの統合のための教授方法開発					
研究期間	2021年度～2022年度					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	住吉和子	看護学科・教授	成人看護学	統括	
	分担者	渡辺 富夫	情報システム・特任教授	情報システム	コミュニケーション教育に関するアドバイス	
		関根 伸太郎	看護学科・教授	英語教育	英語教育に関する教授方法の検討	
		岡崎 愉加	看護学科・准教授	助産学	講義・演習に関する教授方法の検討	
安酸 史子		関西医科大学・看護学部教授	看護教育学	学部および大学院カリキュラムの構成と運営に関するアドバイス		
初年度の成果	<p>2021年度は、看護系大学協議会の中心でモデル・コア・カリキュラムやコンピテンシーの作成に携われた内布敦子先生に、看護系大学のカリキュラムに求められる内容について講義をしていただいた。新見公立大学、川崎福祉大学、岡山大学と共同で研修会を企画し、今後もカリキュラムについて検討していく基盤が構築できた。岡山県では専門学校を含む施設代表者会議が年3回開催されており、今後は「県内で協力して看護学生を育てる」というコンセプトについて話し合っていく予定である。臨地実習を行っている3年生に臨地実習に関するグループインタビューを実施したところ、講義や演習では得られない「実感として」の学びや「腑に落ちる」と学びをしており、コロナ禍での臨地実習ではあるが、臨地実習でしか学べないことを学べるように支援することで、学生の中で学びの統合が可能になることが明らかになった。</p>					

※次ページへ続く

<p>調査研究の進捗状況と今後の推進方策</p>	<p>コロナ禍の影響で学生調査の方法を変更し、数名のグループインタビューの実施となったため、データに偏りがある可能性がある。今年度は、感染予防に努めながら、広く副巣の学年及び教員を対象とした調査を行いたい。</p> <p>さらに今年度は、実習教育に加えて、講義・演習についての教授方法についても検討を行う予定である。具体的には、本学の学生及び教員を対象とした「学びの統合」のための努力と工夫について調査をおこなう。全国でカリキュラムの工夫を行っている大学の教員を対象に教授方法とその効果について明らかにし、本学のカリキュラムの見直しを行う予定である。</p> <p>教育について話し合える風土を醸成することを目的として、本学科教員を対象としたカリキュラム及び教授法についての研修会を県内の大学と共同で開催する予定である。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>特になし</p>